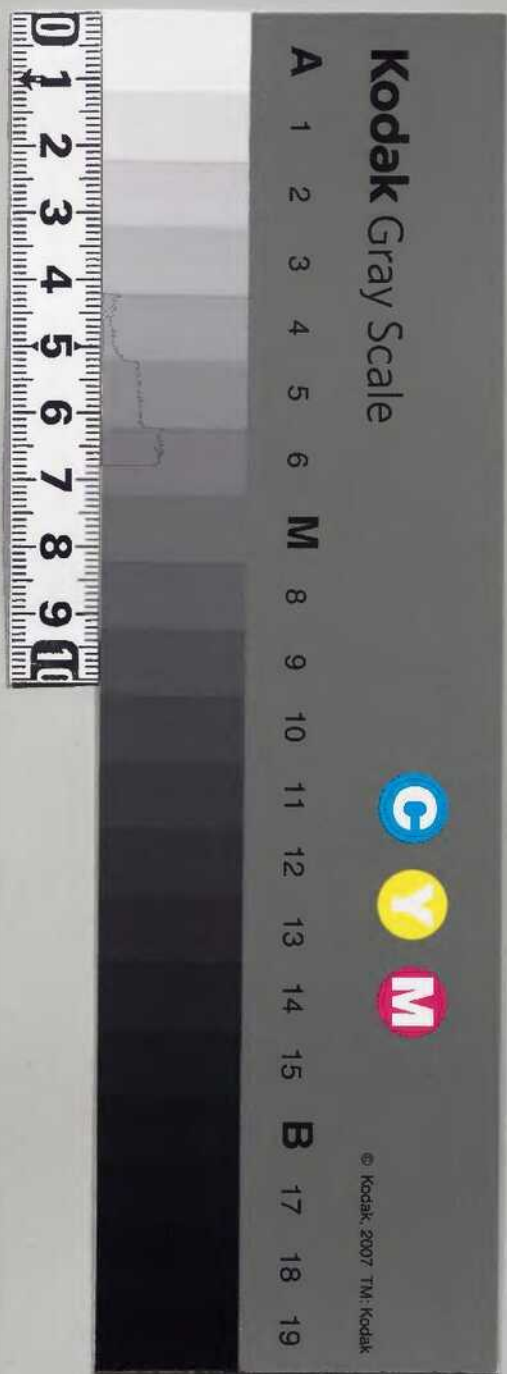
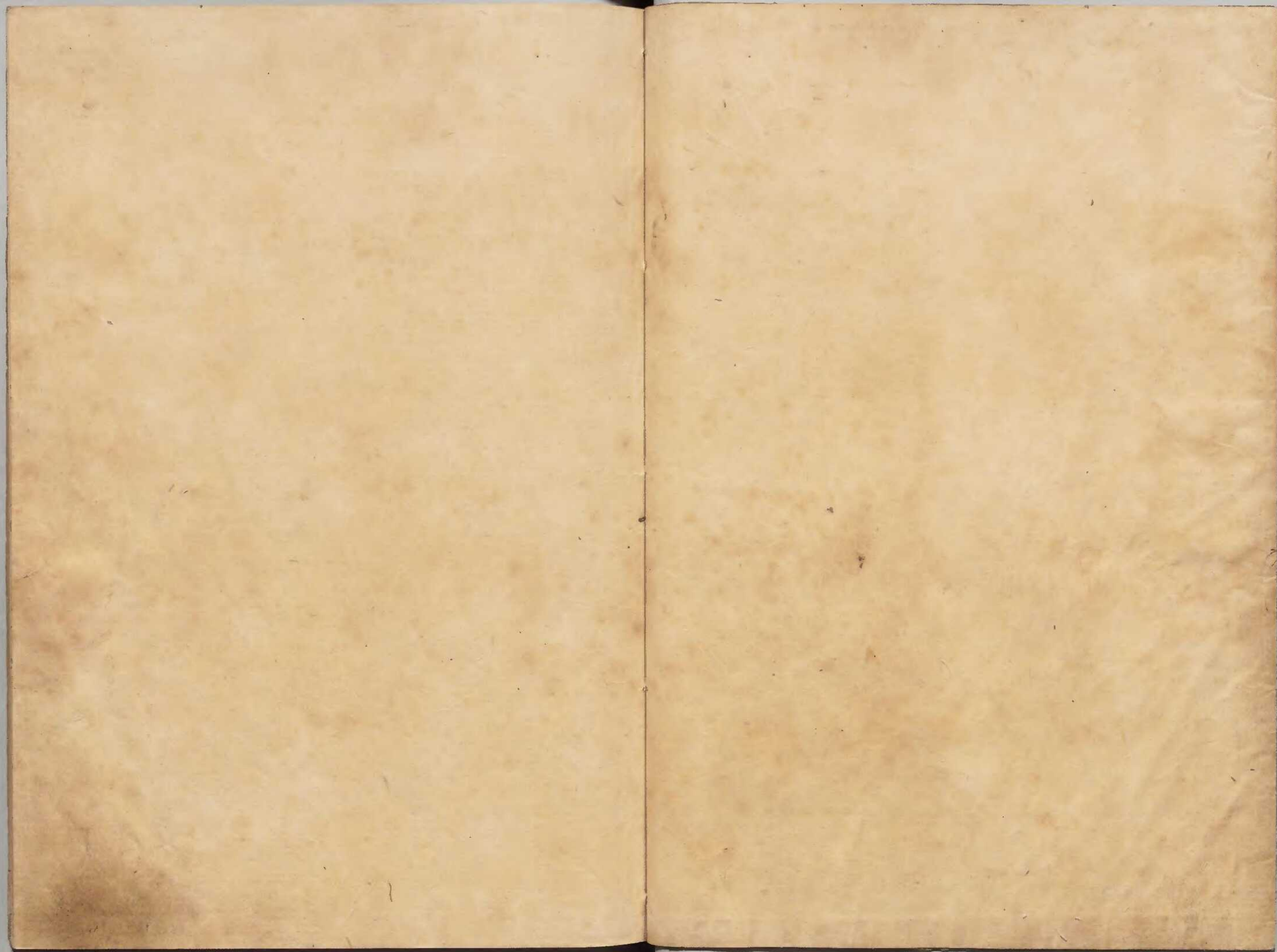


寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内武田流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (43)		
函號	栞	76	1





山高
山寺
曲淵
岩出
油川
竹川

青木
柳沢
近山
八戸野
馬場

寛永諸家系圖傳

清和源氏

度七

義光流

山高

信光

武田五郎

伊豆守

信長

一條六郎

信孿

一條八郎

淺草文庫

時信 ときのぶ

一條甲斐守 いちじょうかいのり

義行 よしのり

一條次郎 いちじょうじらう

信方 のぶかた

一條太郎 いちじょうたろう

後山言甲斐守 ごやまごえかいのり

山言と称号と守 やまごえとせうごうとのかみ

信武 のぶたけ

春方 はるかた

左郎 さろう

右郎 みぎろう

信行 のぶゆき

經春 のぶはる

左郎 さろう

右郎 みぎろう

家信 けのぶ

信基 のぶもと

左郎 さろう

孫左郎 まごさろう

基春 もとはる

信之 のぶゆき

石見守 いそみのかみ

越後守 えちごのかみ

親之

石見守

生國甲斐

武田信玄たけだのぶひら一騎いっしやうへく武川十二騎むかわにじふにしやう

れ隨まつまりまけま十二騎にじふにしやうのみが武田たけだの一族いっさく

が家いへゆへゆへ毎まい日にち正月しんげつええ日にち祝いわいの河かおおののく

直ただとといいふふききちち一いっ張しやうとといいくく揚あ敷しき河かへへ

いいららままううぐぐるる例れいとといいふふ事ことななららずず

信玄のぶひら武川むかわ十二騎にじふにしやうとと合あ方はたをを馬うま助すけ信のぶ整ととがが

継ついでにに属ぞくせせしし親おや之のももをを中なかつよよるる一いっ張しやう

訪たずねねのの騎しやう馬ばををびびよよ足あ持もち之の十じゆ人にんとと親おや之のくく

子こ力ちからとと守まも

永祿えいりく四年しやうねん九月くわがつ十日じゆにち信のぶ列れつ河か中なかつ鴻とんぼ乃の合あ我が

乃のとと信のぶ整とと討う死し親おや之のをを歎なげとといいふふとといいふふ

信のぶ整ととがが首くびとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

是こゝよりよりいいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

道みち草くさのの義ぎとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

或ある説いふはは山やま寺てらとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

信親 のぶちか

河中鴻合我の内山寺の末信盤下屬
しそくやく敵陣より入る討死す
信盤が敵とすのよわ可

同九年六月十八日死去 年五十八

宮内 くさい

生玉回お

信玄少所久くよ力同心をわつる家
永禄十二年信玄相列小田原下後白

信玄 のぶちか

三階あり合我のとき信親首級とゆら
元龜三年十二月廿二日並列三方原
く討死 年四十二

宮内

生玉回お

信玄勝頼より信
信親討死乃河信並いまま切がたるへ
よ力とあがり家事禱すいしもふと

是將之十人とありつゝは終無子信豊しんぷ一
属りくして後のちは武者い者や新あたらしとある。

天正三年てんてい之列り長藤合戦ながとうがいくさの時とき信豊しんぷ
鉄炮てつぱうよりつゝて右みぎの股またとほりぬき馬うま乃なり

かゝるゝとけ左ひだりの股またへうらと可たり走はる也
も幸あきなりてまぬらる事こととほり

同八年どうはちねん上かみ列りあはれ城しろ合戦あいくさの河が終すま無な鉄てつ
炮ぱうよりつゝて左ひだりの股またとほり

同十年どうじゅうねん甲か列り没落ぼつらくの河が終すま無な鉄てつ
乃なり下した

知しるる徳とく々々武ぶ川がわに詭こ計けいのこくくううれ小こ屋やは
左ひだり番ばん寸すん手て後のち折を井い市し金かね乃なり米こめ念ねん之の斗と遠とほ
列りよりつゝ成なり敗は者もの也なりとたのんんと

東照大権現とうしょうだいこんげんよりつゝ人ひとももん事ことと言い上あす
河が一いつ明めい智ち逆さか公こうののりりあり

大権現泉列だいこんげんせんれい場ばよりつゝ之の列り一いつ選せん師しををてお
井い米こめ念ねんととるる 信しん々々乃なり汝に等とうああ人ひと也なり

屋や々々甲か列りよりつゝ同どう志しののををわわりりののて
沙さ馬まに甲か列りより入いりつゝ約やく一いつ人ひと則すなはち馳はるる河が

て武川の諸士と相しよる先陣より列す
は時小條氏重が祢子小後向一武川の
佐列の境より依り斗葉とありし
武川の諸士とまのりといへども是より
直せすみか志とありせし

大権現より属し一重小條が流堂小沼小を
れめとせめりし

大権現新首より入河武川の諸士同河より
物福より後氏重と少對陣れありし

小條の如文よりする使者あり武川の諸士
伴の使者と討取れ如文よりするし

大権現より敵しけとハ沖感より本領安
松河津兼平とたまははれ遠見日野
臺原より坂の邊へ敵兵しそりようひ
まろつれは直是と察して柳原若部と相
とくつと若と之吹巻よりせし敵打しつる
と約て是よりらと首級二つ生捕一人と
ゆへ新首より敵す河より

大権現河原英と大ま

御訪安藝もいまは河原下は属せす

知見寺紙おと

河原下は属せしむ越前別武川流と

同く忠志とくげます存御訪又

去るがひは

同十二年尾列も久し沖合我のも

列真田は不さへして勝るの城も

河原陣は存牧野も古来の一属して

尾列一宮の城番と勤し

同十二年尾列真田陣の河大之保七郎

古唐の属して在陣寸妻子と人質

して後討は敵にけと八聖年正月

御書と武川は流中より下り

同十八年小田原陣は信貞と勤し

同年同東沙入玉の河武列鉢取

系地とくま

同十九年真列陣の河信貞と列して

岩小波よりの親

又禄元年名護屋陣の河山本帯刀

属して伊豆の山より板とす

寛永五年真田陣の河信直病あり

子親重

台徳院殿の侍と勤む

寛永二年死す

親重

孫孫 生國同家

天正十九年奥列陣の時

大権現と相福しまつく侍と勤む

寛永五年真田陣の河大久保相模と

属して侍す

同八年 治小依く甲列少く采地と

たまたま河原の河原集人正とたのん

又依と各列よ采地とたよりん事と

訴て翌年甲列了り赴く

同十三年甲子其城自午迄至斗既
伯少ら〜義忠歸は属する河親重武川
津金に法士と申どく甲子其城番と勤
同十九年大坂陣の河津防同備守甲列
よ来〜城番と勤むゆ〜武川の法士大
坂小ら〜沖旗本の先陣に列す沙田陣
其後又甲子其城番と勤む聖子馬乳乃
河津防同備守又甲子よ在番ゆ〜武川
乃法士系勤〜い〜い〜い〜大坂すて〜

落城

大権現薨沖は後

台徳院殿と申〜其〜甲子其城番本

乃こ〜
忠々卿甲列と領する河武川の諸士

乞〜属す

同十九年十二月

將軍家と申〜其〜甲列武川はら

山高ふ〜本陣の地〜い〜

信俊のぶ

三右衛門

生国武藏

祖父信重のぶが養子とす家

安永十九年

伊多佐渡守正信

台漣院殿の

治とすけなまなりて信俊のぶ

信重のぶが来地こまちと成せし信重のぶ病阿らゆへあり

大坂陣おおさかの河正信のぶに属して信重のぶと勤つとむ

元和二年忠長ただなが郷ごうに属まかす

寛永十九年十一月

將軍家と成し且つ武川むかわの内うちみく

来地こまちとす

信保のぶ

五郎左衛門

生国甲斐

信吉

清九郎

生国甲斐

いへん
家級割表

青木 あきき

● 信成 のぶなり

武田刑部大輔 たけだ けいぶ だいほ

法名雪窓 継統院 ほつそう けいとういん

新羅三郎 義光 後胤 武田右衛門 信義九 しんら さんらう ぎこう ちゆういん たけだ えいもん のぶのぶ

代の孫 よりのまご

信惠 のぶけ

陸奥守 むつしのり

法名 洞月 淨妙院 ほつめい どうげつ じやうめういん

信乾 のぶかつ

加賀守

江右梅庵存鑑院と号す

信資 のぶすけ

落合常陸守

天正十年二月十日武田勝頼より子信勝
甲列天目山よおわく自害の河一下あく
死す 江右機叟新若院と号す

信生 のぶき

喜木信左衛門

信生幼少のとき父了りてあつてゆへ同甲斐
源氏喜木左衛門守信時より一子一かして
子とわたり信時法名全名
安永二年六月十日大久保相模守日下部
兵右衛門あつて信生

東照大権現と号す

同五年九月

名徳院教真白とらびかりて入浄えんぢうと教しやうの内大久保おほくくが

相控あひかへも紐くみよきくみひひ侍さむらいす

大坂おほさかあなれ沙陣さじんよよ如多にょた佐渡さつとも紐くみしし屋や

一ひと侍さむらい寸すん三さん後ご

右軍家みぎぐんけ几い鉤かぎ命いのちふふりりわわ紅葉山こうえつさん浄じやう宮みやの寶たから蔵くら

とゆりれ

家紋けもん輪りんの月つきに生なまの字じ

喜木 らきき

信正 のぶただ

子若湯

尾張守 おわりのかみ

生玉甲斐 なまたまのかい

武田信虎 たけだののぶたけ
よけり

法名深見 ほふなふかみ

信定 のぶさだ

夜九郎

主計頭 しゅけいづかみ

生玉回分 なまたまのわいぶん

信玄 のぶひら
びよ務執 むとにぎ
よ仕へ 銚子所 しやうしよ
とらふ

天正三年五月長原合戦の内討死
法名宗青

豊定

勅九郎、勅吉徳尉、法名玄栄、生玉同外
東照大権現（所入）

豊猪

童名竹助、勅右衛門、生玉同外

大権現

台徳院殿

將軍家（所入）

寛永十一年、台命（所入）小（所入）りて、瑞市（所入）正徳

了（所入）一、大坂沙場と相勅（所入）

同年病死、法名日仁

豊信

宇右衛門

生玉茂茂

喜木 わかき

山寺 やまてら

武田たけだのの庶流しよりゆうやや喜木わかきのの郷ごうとと飲のむすす
小依こゑくく喜木わかきのの称なづか號ごうとと用もち

● 信種 しんしゆ

喜木わかき尾張おわ守まも 生玉なまたま甲斐かい 法名ほふな德也とくや

数代すだい武川ぶせん子こ居い恒とこ可かるるよよ依ゑくく武川ぶせん家けと

号ごうす

甚左衛門 生國同家

信玄勝頼より之へて改番とれが

天正九年勝頼上野に首を城とせしむ

河内昌勝頼眼あみく病とあり

名とあり

同十年勝頼自害の後信昌召されて

東照大権現と名付ししむ小條氏忠と

甲別新府少く對陣河内武川の信列境

より信列氏直とて計策とありし

武川流とていへども武川の徳士是

より慈せりしとみか同きよ

大権現より屬ししむけ忠志よりし御業

と信より申領地とあり

同十二年尾列長久寺合戦河内列

真田氏おさへて捕らる城とあり

沙耨と勅沙油陣の後尾列一宮打番と

大権現オホケンゲン一ヒト行ユクくク有アり

天正十九年テンセイジュウユウネン奥列ウケツ沙陣サジンに侍サマと勤ツトメじ

同年ドウネン父ウチノチチ信昌シノマサ死シ去サれノ後ノチ 治シまシりテ造ツクりシとシはシぐ

とシはシぐ

安永五年アズノエゴト真田沙陣マキダサジンにシ記キ

名徳院ナトクイン教キョウ一ヒト行ユクくク有アり

同八年ドウハチネン 治小塚シノコヅカ一ヒト行ユクくク有アり 武川タケガハにシ記キ

不フ成セのノ地チにシ居イるコト可カ

義直ヨシナカ郷キョウ甲列カケツとシ記キるコト内ウチ信シノブネ克キツ

大権現オホケンゲンのノ命ノチにシ依ヨりテ義直ヨシナカ郷キョウ沙陣サジンにシ記キ

勤ツトメとシはシぐ

義直ヨシナカ郷キョウ甲列カケツとシ記キるコト内ウチ信シノブネ克キツ

信克シノキツ 約命ヤクノチとシ記キるコト内ウチ信シノブネ克キツ

同十九年ドウジュウユウネン大坂陣オオサカジンにシ記キ

大権現オホケンゲン返マゼりシ因ユ情シヨウとシ命ノチにシ依ヨりテ甲府カウフにシ記キ

勤ツトメりシ武川タケガハのノ諸士シヨウシとシ大坂オオサカにシ記キ

不フ成セのノ地チにシ居イるコト可カ 治シまシりシ

て甲府カウフのノ沙陣サジンとシ勤ツトメむ

元和元年大坂再乱の河も甲府も互番可
諏訪同情也と方より甲府もまゝつるゆへ
大坂落城の後武川の徳士家於よりこれ
大権現荒御の役
台徳院殿と在湯一なり又 治は徳て甲府
れ城番と勤し
忠長卿甲列と成むる河武川流 御命
よ徳く忠長卿より属す
寛永十九年

將軍家へ石出さつても甲列武列あゝ御
れ地とこまふ

信時

子長東尉 尾張守 生玉回
信玄勝頼より一は
信河出陣と小武田典厩の徳も属し
合札に英雄の二字と書して是れ也
天正十年

大指現位河と石出うれ

同年

大指現小條氏並と甲列新野と對陣れ
氏並武川流ともいひていづれも是なり
世すして

大指現よるふいなり忠志とありしすふら
御朱平と結りり也と取寸

同十二年尾列長久と合戦の河尾列真
田れかきへして揚るれ城と互著す沙由陣

れ後尾列一宮の城番と勤じ

同十二年尾列真田安房もとせしれとき
味方利あり武川れ法士共と陣してあり
乃信河馬上より騎馬の敵一人とけれ
おとすといへども終時が馬うく疲とあり
ゆへに首とる事ありし

同十四年 信小川と武川れ法士人質と
強列よほりし守半と物成候と名は
うけし海りる是は信と御書とありし大久保

新十名忠隣印多弥八郎正信うへ状是
河

同十八年小田原陣此後と勤心
南東沖入小田原武列鉄取よわく来
地とたまたま

同十九年奥列沙陣此後
天文五年病免
法名全七

信安

子忠親尉 生玉同あり

捨取ししけふ

天文九年勝頼と列おれ城をせしめと記
馬廻乃士卒甲冑と着せんと軍中の祈

と巡見可城申すわ共と出して相成よ又
終時捨取が眼あしと敵と切くうれ首と
とら修毎も又敵とあひくんで首とまきれ

河は小田村とよりのちち三百貫の地と取す
け日うれ氣臆すゆへは地すくびは後者忌

とら河にげくあま佐安よりくへくあま使者と守河
よ佐安年十八

同十年あま佐安よりくへく

大権現あまよりくへくへまね

同年甲列新府陣あまあま武川に徳士軍
功あり神對陣あまのうら佐安之友首級と
つら

同十二あま子佐列三回陣あまのとき佐安之陣の
隊長成沃基右衛門と印くうの首とつら

その後沙出陣あまと小佐安あまよりくへく
佐安あま

交長丑年あま真田沙陣あまれ河

名徳院教あまよりくへく

同年父佐河死あま去

大権現あまれ 治あまよりくへく

同八年武川あまの平筑小御あまく居治す

義忠郷甲列あまと佐安あまと記神助あまの書

と勤じうあまのら義忠郷あま列あまよりくへく時

甲府の城より在番す

同十九年大坂陣の内御訪因幡

信小伝く甲府の城とまりりゆ(武川の

諸士大坂よりつて御旗本先より列す

御陣の後又甲府の在番と勤む

之和久のら坂事乱の河 信小伝く武川

旅京於よりつて大坂にて在番す

大指現薨御の後

名進院殿と称し甲府の城番と勤む

事不詳

忠長卿甲列と称する河本川に諸士是小

属す

同九年病死 法石玉英

信就

弥七郎 与忠衛 生玉同家

十七歳に記

大指現の命より信く尾列義直卿より

父修安老表とるあへ義忠郷と辞して甲
列より河内就也

名進院殿の命とありありと父とあり

忠長郷よりけり

寛永十九年 石出され

約軍家とね一より甲列武川あり

此の地とある

家の紋割菱

● 信定 のりさだ

青木虎弼 あきき トラノスケ

生玉甲斐 なまたま かい

武田信繩信虎父子 たけだ のりすべ のりこら ちちこ

病死 いび 法石津賢 はふしきん けん

柳沢 やなぎざわ

初 はつ 八喜木 やちき と姓 しやう と寸 すん 信後 のりご 代 しろ 小 こ 川 がわ
て柳沢 やなぎざわ と称 なづ 號 なづ 寸 すん

信玄しんげん

及張弓

生玉同外

武田信玄たけだのしんげん父ちち子こ小治こぢ之の度たび之の軍ぐん

功いさあり 七十三歳しちじゅうさんさい少すくく病びやう免まぬ 法はふ名な

孰たしか康やす

信俊しんしゅん

源七郎

号なづ敏とみ丞しやう

生玉同外

信玄しんげん孫まご頼より父ちち子こ一ひと行ゆきふ

元龜三年十二月廿一日げんき三年十二月廿一日之の列れつ長なが藤ふじ合あ我われ乃の時とき

軍功ぐんこうととししけけすす寸すん

天正三年正月廿一日てんしやう三年正月廿一日之の列れつ長なが藤ふじ合あ我われ乃の時とき

味方あじかた敗ま軍ぐん一ひととといいへへもも孫まご頼より父ちち子こ一ひと行ゆきふ

防ぼう我われ可か同どう八はち年ねん上かみ列れつ常とこのの城じやう行ゆきりりててににかかわ

くく言こと名なああわわはは忠ちゆう功こう小こととししけけすす寸すん

柳やなぎ沢さわ一ひと次じとと好このいい号なづ敏とみ丞しやうとと号なづ寸すん

同どう十じゅう子し甲か列れつ没ぼつ落らくれれ後のち信しん長なが生なま害がい乃の河が

信俊しんしゅん

東照大権現へ石出さる小糸氏並甲列へ發
向れとせし

大権現御出さるまゐりて小糸先主ひらとけりひ

種々こゝろ信後忠節まこととけりひ小糸方

取きりせすすて小糸方こゝろ小糸こゝろと武

川の若わかきとと同おなじく遊あそばす

大権現甲列おほに沙すな流ながの初はつ氏うぢ並ならに計けい策さく

れらに次つぎせししその人ひとをを言いひひて武ぶ川がわに

者ものとと同おなじくいひひあありりせせははととううららととわわく

敵てきすす御ご對陣たいじんの別べつ新あらた府ふををてて小こ太たわわく

高たか名なををいいひひ小こ敵てき一人ひとりとと生なま捕とらふふ忠ちゆう節せつ小

とと御ご領りやうととおお願ねがひひす

同十二年どうじふにねん尾お列りやう小こ牧まき沙すな陣じんの河がわ修しゆををううれ

初はつ 信のぶ列りやう同おなじじ一いつ宮みやの旗はた番ばんとと勅つしじ

翌年よくねん信のぶ列りやう其その田た表あはへへ若わか士しととけけりり小こ糸いとととけけりり

彼地かのち小こおおわわくく走はしりり人ひと質しちととてて妻さい子し

とと後ご列りやう真まこと守まもりり敵てきととりりににけけりり御ご並なら判はん

とと後ご列りやう真まこと守まもりり敵てきととりりににけけりり御ご並なら判はん

とと後ご列りやう真まこと守まもりり敵てきととりりににけけりり御ご並なら判はん

元和八年 台命たいめいありて忠孝ちゅうこう郷小きょうせうつふ
之後

將軍家より御杖みづゑ持方もちかたと給りし

寛永十七年八月

將軍家（石出）より御寶券みずせんの御書みづかきと給りし

信時のぶとき

十右衛門

生玉なまたま同家

安永十九年父信俊のぶとし死去しよきの後のち兄信文のぶふみを

御と給りて信時のぶときハ信文のぶふみが御比みひと為

領して

台漣院たいれん殿のり了りしけりてそまひれ

元和元年 治小ちひさありて後河大納言ごがわのちのり忠孝ちゅうこう郷きょう

了りしけり

寛永十六年十二月 石出いしでよりこれと継つぎりし

市袋村いちぶくろむらありて知りし給りて身み方かた御書みづかき

及および御書みづかきと勅つとじ

家紋割菱

東照大権現甲列御入玉の河忠長河原小

より石出せし御福一御

病死七十三歳 法名乾康

信次

曲淵基太衛門 生玉回あ

曲淵彦左衛門がけり婿とされこりゆり

青木とわくくありて曲淵と号す

天正十九年 石金これ相列西郡中村り

おわく御死とたまふ 釣合りりりり

武川の若と同一く

大権現一しほくへくくまひ

安長と上との間余沙陣乃河

台漣院殿小房一より又真田陣一修す

同十九年一太坂沙陣の河修す

元和九年 治小よりて忠長知りりり

寛永四年一月十乃病死河一五十七歳

法名芳玄

信貞 のぶさだ

源二郎

生玉相列 なまたまあひだり

台徳院殿

將軍家の一つ行ゆ久く一つ行ゆ其その行ゆ執しやく

信行 のぶゆき

基古事の

信次のぶつぐ死し一つ後のち是こゝ迄までと信行のぶゆきは終おひりりて

忠令のぶのぶ知し一つ行ゆ

寛永十六年の正月の廿にじふ六ろく日にち

將軍家の一つ行ゆ久く一つ行ゆ其その行ゆ執しやく方かたの沖おき番ばんと

勅しやくじ下くだ總そう東とう若わ村むら小こお力ちからく似に地ぢと終おひり

家紋の木き凡ひん或あるハ割わり菱かぶ



曲まろがら削

● 吉よし系けい

左ひだり屋やのの尉ゑい

生なま玉たま甲か斐ひ

信のぶ玄げん一いち一いち一いち

天てん正せい十じゅう年ねん

東あづま照しょう大だい指さし現げん甲か列れつへへ河かをを教を乃の河か相あひ一いち一いち

河か小せう系けいとと沙さ野の陣じん吉よし系けい父ふ子し我われ功こうと

と申すすよふわ御書と給りけし族々の
今よ是と取付寸之後相列る取付しおわ
て此地と給ふ

文禄二年病死 七十六歳 法名玄玄

名清

總殿左衛門尉 生玉同家

大指現の命小左衛門甲府御城乃御書と
川津金右衛門一不子勤心

元和五年病死 七十五歳

名房

助左衛門 生玉同家

大指現へはくへきり之後

名徳院殿へはくへきり之後
三十五歳小く病死

行内

小十郎

將軍家よりしつり

正行

勅后傳

生玉同家

實まことハ下津しもつが子こなりわ名系なげ養子やしとりし

正名

十戶傳

生玉相列

名德院殿

將軍家へしつり

名重

助丞

生國甲斐

甲府こうふ津城つじょう乃沙番さばん名重なげと同一どういく是こと

寛永十七年かんえいしちねん病死びやうし七十歳しじゅうしちさい

名門

清考傳

生玉同家

大指現国^{くんぎ}東^{ひがし}沖^{ひらき}入^{いり}玉^{たま}乃^の河^が相^あ列^ら小^こお^のの^の来^き地^ち
とたまたふ

元和五年

台^{たい}德^{とく}院^{いん}殿^の的^{てい}命^{めい}小^この^の忠^{ちゆう}長^{ちやう}卿^{きやう}小^この^の行^{ぎやう}ふ

寛永十三年

將軍家^{しやうぐんけ}の^の命^{めい}小^この^の奥^{おく}方^{かた}沖^{ひらき}番^{ばん}と^と勤^{つと}じ

旨次^{しげつぎ}

清翁

生玉相列

家^い紋^の本^{ほん}丸^{まる}内^{うち}紋^{もん}表^{ひら}



道山ミチヤマ

久家キウケ

雲長之部

生玉甲斐

武田信玄タケダノシノブ小幡コハタ小幡列コハタノタテマツ河津カヅ嶋シマ合アヒ我ワ討ウチ死シ

久次キウジ

子左衛門

法石休也ホウシキユイ

生玉同前

武田信玄掛札えんごらち一は行ふ

天正十年

東照大権現甲列沙入けいこ玉ぎよの河石出かされは久く

手紙てがみ之後

名徳院殿小治久こぢく一は手紙

永嘉えいげ

与左衛門

生玉なまたま同どうの

名徳院殿

將軍家小治久こぢく一は手紙

永安えいあん

市右衛門

安後やすご

五右衛門

生玉なまたま甲斐

名徳院殿

將軍家と相湯あひゆ一は手紙

安成 やすなり

六左衛門

しちごくし
生國武苑

名徳院友

將軍家了了子

いへのん
家紋 かたがら
地黒割菱 びり

岩お いはて

信盛 しんりき

徳光 とくとく

生玉甲斐 なまたまかへ

法名遊山 ほふなまゆざん

武田信玄たけだのぶげん
小治こぢつつ
〜
護身ごみんりり
ととななれ

信宗 しんむね

右衛門

生玉同前

一信ろふ

武田信玄むけのぶ一信ろふの遺言いごに依りて、
天正十年甲列没落たてしやうれとも、甲列乃
方人かたひと一信ろふの命いのちよりて自
殺寸ころす 信右のぶみの命いのち

佐五右衛門

生玉回廊

信右のぶみの命いのち

東照大権現とありて、
名徳院殿

將軍家しやうぐんより、
信右のぶみの命いのち

信次のぶつぐ

信久のぶひさ

平左衛門

生玉なまたまの命いのち

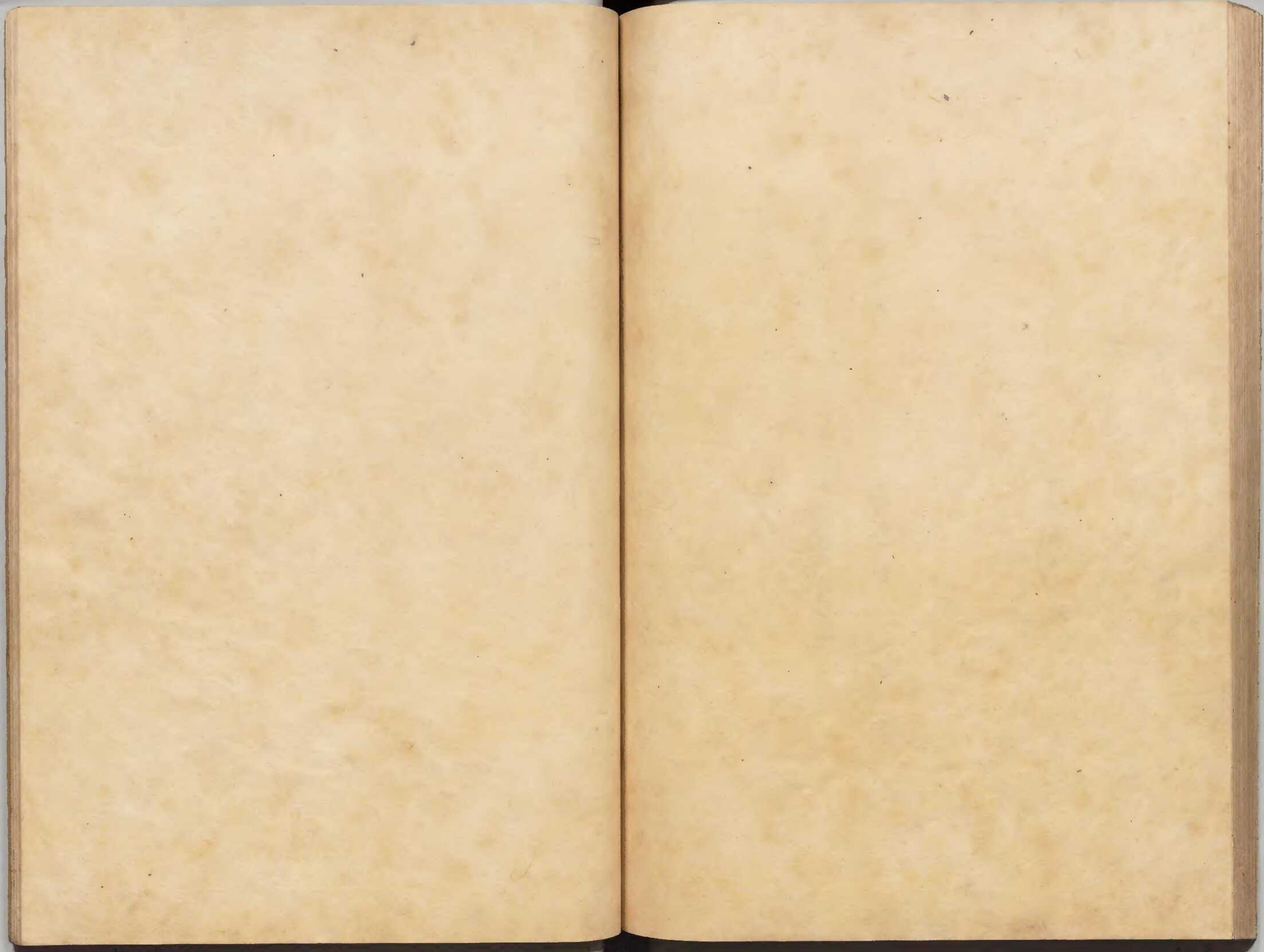
將軍家しやうぐんより、
信久のぶひさの命いのち

信久のぶひさ

平十郎

生玉なまたまの命いのち

家紋いえもん割菱わりひしやう



入戸野いりどの

● 門定かどさだめ

和泉

生國甲斐

代々武田家了行たけだのりよ

門宗かどむね

又考清

生玉同前

武田信玄孫頼父子たけのふみんかんらちりふし一い行いふ
甲列かひ没落ぼつらく以後いご小糸氏直こいとじち甲列かひ一い後向ごこう

のり

東照大権現沙由馬とうしょうだいこんげんさゆまありありりににののりりてて御ご
先子せんしとと所しよののいいらら河小沼かひこぬま少左せうざ北条きたじょうよよ属ぞく
せせ一いとと門宗かどむね武川たけがわ家いへとと同どうドドくく是こゝととせ
わわややううりりくく首級くびかきととゆゆららとと後氏ごし忠謀ちゅうぼう
書しよとと未方みかたれれ中ちゆうへへととくくれれ門宗かどむね又また武川たけがわ家いへ
とと相後さうご一いくくうう乃の使者しや面めんへへととううららとと心こゝろ

こまこまいいよよりりてて平領ひらりやうのの地ちとと治ちりり

天正十二てんしやうじふに年ねん尾列おひ小牧陣こまきじんよよ治ちりり

同十二年

大権現だいこんげんとと治ちりり真田まゐだ一い河門宗かどむね

妻子さいしとと人質ひとぢよよ後列ごれつ一い献けんトトてて軍ぐん忠ちゆう

ととううげげまますすゆゆへへ武川たけがわ家いへとと同どうトト治ちりり

並判なみはんのの沙書さしよとと治ちりり

同十八年どうじふはちねん小田原おだわら沙陣さじん一い治ちりり後ご

同どう東とう河入かひいり小このの河か武ぶ員いん鉢はち形かたよよおおわわくく

尾列と給り給

門宗教度とむねのたの方かたとありしとてしつらり常御番とこし

とゆれこれ給り給こゝろし居す

奥列沙陣おくりやぢん小治こぢををしとてしつらり用原もちがはら

沙陣さぢんし

名徳院殿なとくゐん小治こぢををしつらり美田陣みでんぢん小治こぢをを

寛永九年かんゑい甲列かへつしつらり甲列かへつの地ちと給り給

甲列かへつより毎まいに江戸えど小治こぢををしつらり

大指現おほさしげんと給り給

尾列おしり大納言おほのつげん義直よしく郷ごう甲列かへつとありしとて尾

列り小封こふうせし給り給河内かゝい門宗とむね 鈞命かみによりし

甲府かうふ沙陣さぢんの御番ごばんと勅しつじ

大坂おさか沙陣さぢんの御番ごばんと給り給甲府かうふの城しろ番ばんと流符りゅうぷ同儀どうぎ

小坂こさかしつらり沙陣さぢんの御番ごばんををしつらり大坂おさかよ

發向はつこう寸町すんぢょう小門こもん宗朱とむねしゆ念左ねさ右みぎ左ひだりとて同どう

治ちとありしとて海うみよりして金堀かねほりとありしとてせし城しろ

中なかつへありしとてし

寛永八年かんゑい病死びやうじ八十五はちじゅうご歳さい 法名ほふな宗昌とむねまさ

九尾湯の村

生玉同の

天正四年

菊命よりして忠告あり

はる忠告を遊去の後大坂沙陣の河

大権現へ石出されし河津物方と名取

父と同日くはるし

大権現燕沖の後

名徳院敏の命より河津大納言忠告あり

はる忠告より河津の領地と給りあり

祖父門定が忠告と給りあり松平忠元もこ

忠告あり

寛永十年

將軍家より河津物方と給り

同十一年石出より河津廣安の沙番

と勅下総の玉加茂村より河津の領地と

名取あり

門名

孫止善尉

生玉回

祖父門ふがき池とねんてはく

まの

家紋 叙美

● 信吉

油川

秀之郎

生玉甲斐

茂田信玄えん了し行ゆふ

永祿えいりく四年し信列のぶりつ河か中ちゆう嶋しま全ぜん我が了し討う死し

信次

田原信吉

生玉甲斐

信玄捕殺たづねす
天正三年長篠合戦の河討死たづね

信貞たづね

源光盛

生玉回春

天正十子

東照大権現たづねへ石出いしだしる取討と可べ

安永五年

名徳院殿なとくゐんとありありより開尔沙陣かいにんさじんより修しゆをを

大坂沙陣おおいさかれと見伏見沙城みふし陣じん者ものと勤心きんしん
寛永三年死去七十歳

信成たづね

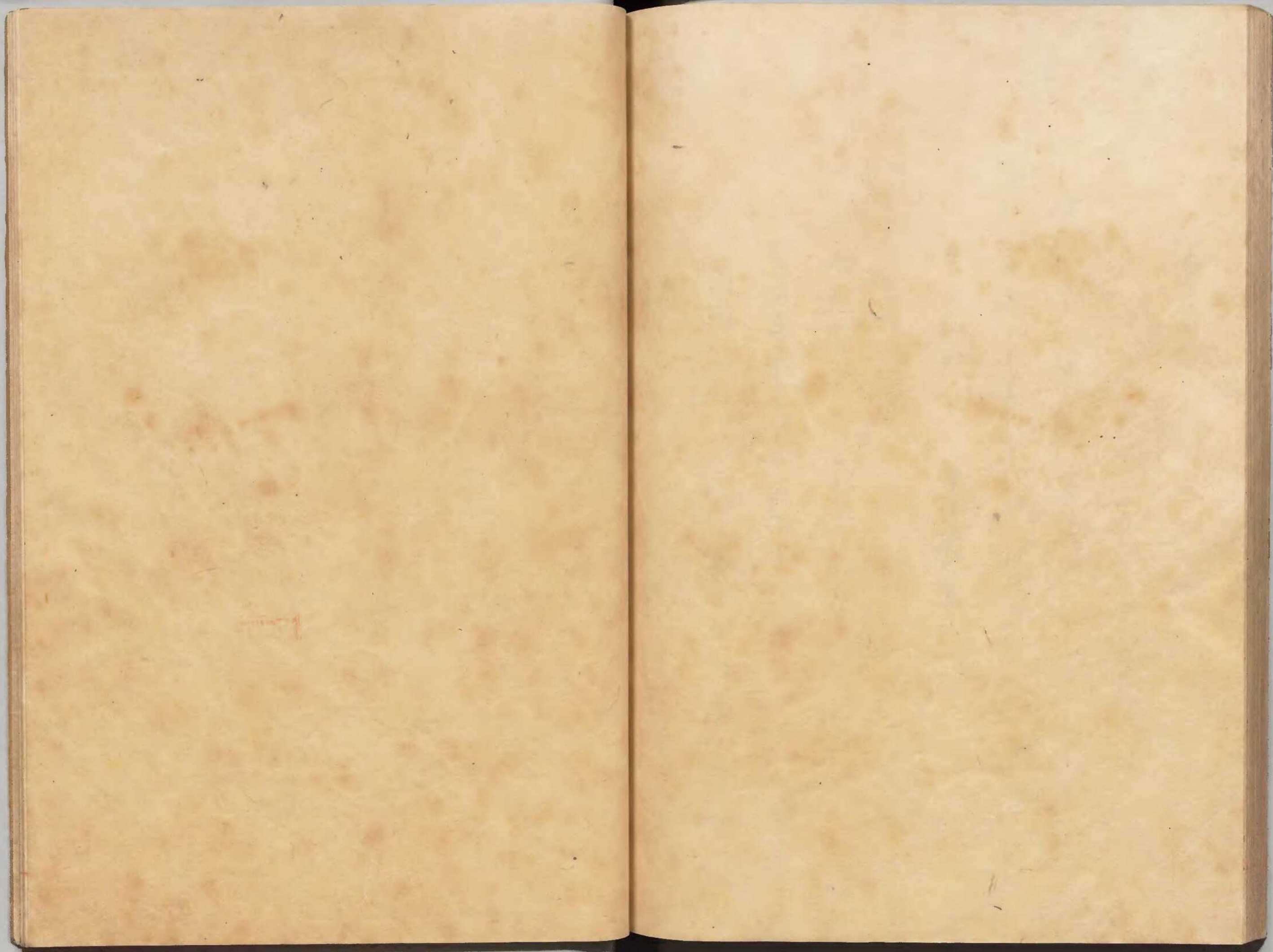
市良光盛

生玉武苑

寛永十一年

將軍家しんぐんと取討とりしる

家紋割けもん裂さ菱りやう



● 信保 ノボリ

馬場 ウマバ

志江

生玉甲斐

志江 武田信虎 小治之 甲斐 武川 若大賀原
根小屋 丸城 子垣す

信久 ノボリ

後河

生玉河

信成

武田信玄えん小属せきして軍功あり
天正十五年十月八十歳い病死
法名浄心

右衛門尉

生玉回ふ

武田信玄えん小属せきして軍功あり
天正十五年十月八十歳い病死
法名浄心

天正十年

東照大権現とうしょう甲列こうりつへ沙入さいり玉乃河武川たけがわ乃者
ともしもつこひあもせ
大権現おほごんげんと稱なづけり此こゝ地ちと称なづけりす後
名徳院なとくゐん殿のりと稱なづけり
天正十五年十月八十歳い病死
法名浄心

信正

次郎信正

生國武家

元和七年二月廿六日

名徳院殿と有瑞いかり一いかり

同九年 鈞命いかりより忠長いかり郷いかりより

寛永十年

將軍家より沙汰いかりの方いかりと有可

同十七年

將軍家より公いかりよりいかりへ有可

いかり家紋割麦

予場

氏務

英流

生玉甲斐

武田信玄

天正三年五月廿三日
藤原義朝の討死

系

次良右衛門

房務 むらじ

右馬助

生目同前

小糸氏庶子房むらじ一むらじ氏列むらじ岩付小使むらじ

房家 むらじ

左八郎

生目氏房

岩付城之小糸十郎むらじ氏房むらじ小房むらじ可むらじ後

名酒院殿と取治むらじ一むらじ氏

房頼 むらじ

源右衛門尉

右軍家むらじ一むらじ源入むらじ可むらじ氏

房次 むらじ

源之助

系 むらじ

右八郎

十六歳トシのシ記キ正マ金ネこれ

東照大権現トウショウと有ア記キ一ヒトこれ

房フ信シ

右ミ部ベ吉キ信シ

家イ紋ハ之ノ筋ス山ヤマ路ヂ上ノ羽ハ蝶マ

竹川

明友

若菜清

生玉甲斐

武田信玄格頼りしはくまの

東照大権現とぬし

明忠

下右衛門

生玉同前

文禄元年高麗陣（高麗）

大権現（大権現）一（一）三（三）三（三）ひ（ひ）ま（ま）り（り）筑紫名護屋（筑紫名護屋）より（より）万

安永五年（安永五年）阿爾沙陣（阿爾沙陣）不（不）修（修）行（行）

大坂（大坂）の（の）夜（夜）に（に）沙陣（沙陣）と（と）勅（勅）じ（じ）と（と）後（後）

名護院（名護院）殿（殿）一（一）行（行）く（く）と（と）後（後）

寛永八年八月（寛永八年八月）元（元）去（去）河（河）下（下）六（六）十（十）六（六）某

法名（法名）雄（雄）岳（岳）後（後）英（英）

明茂（明茂）

取（取）古（古）湯（湯）

生（生）小（小）後（後）列（列）

家紋（家紋）本（本）丸（丸）内（内）割（割）菱（菱）

